

札幌市長 様

令和 ○ 年度

役務名 ○○○○・・・・・・・・・・・・・・・・業務

令和 ○ 年 □ 月分 報告書

受託者 ○○・・・・・・・・株式会社

社判

点検・整備総括表

業務責任者

作業分類	点検（月）		管理運転	<input type="checkbox"/> 実施		主要機器	名称（番号）	形式	口径	設置年月日		
				<input type="checkbox"/> 未実施								
作業期間	開始	令和 年 月 日 時 分										
	終了	令和 年 月 日 時 分										
作業内容							主要機器					
						発電機		厚別西川		(0)	(槽容量)	(0)
						燃料貯留量		発寒古川		(0)	(槽容量)	(0)
作業責任者												
立会者												
作業員												
所見	【概況】					【改善された項目】（部品等の交換を含む）						
	【新たな不具合】											

様式1-2

点検・整備総括表

施設名 厚別西川 救急排水機場

記録年月日 令和 年 月 日

業務責任者

作業分類		点検 (月)		管理運転	<input type="checkbox"/> 実施							
					<input type="checkbox"/> 未実施							
作業期間		開 始	令和 年 月 日 時 分									
		終 了	令和 年 月 日 時 分									
作 業 内 容					主 要 機 器	名称 (番号)	形式	口径	設置年月日			
						クボタLSM-KR	水中斜流ポンプ°	φ 700	平成4年			
						クボタLSM-KR	水中斜流ポンプ°	φ 700	平成4年			
					作業責任者							
					立会者							
					作業員							
所 見	【概況】				【改善された項目】 (部品等の交換を含む)							
	【新たな不具合】											

点検・整備総括表

施設名

発寒古川 救急排水機場

記録年月日

令和 年 月 日

業務責任者

作業分類		点検 (月)		管理運転	<input type="checkbox"/> 実施		主要機器	名称 (番号)		形式		口径		設置年月日		
					<input type="checkbox"/> 未実施			電業社SBPFH-AM		水中斜流ポンプ		φ 700		平成5年		
作業期間		開 始	令和 年 月 日 時 分					電業社SBPFH-AM		水中斜流ポンプ		φ 700		平成5年		
		終 了	令和 年 月 日 時 分													
作業内容																
								作業責任者								
								立会者								
								作業員								
所見	【概況】							【改善された項目】 (部品等の交換を含む)								
	【新たな不具合】															

様式1-4

点検・整備総括表

施設名6線幹道排水水門ほか

記録年月日令和 年 月 日

業務責任者

作業分類		点検（月）		管理運転	<input type="checkbox"/> 実施		主要機器	名称（番号）	形式	口径	設置年月日		
					<input type="checkbox"/> 未実施								
作業期間		開始	令和 年 月 日 時 分										
		終了	令和 年 月 日 時 分										
作業内容								発電機 燃料貯留量	No. 1	(ℓ)	(槽容量)	(ℓ)	
									No. 2	(ℓ)	(槽容量)	(ℓ)	
									No. 3	(ℓ)	(槽容量)	(ℓ)	
								作業責任者					
								立会者					
								作業員					
所見	【概況】							【改善された項目】（部品等の交換を含む）					
	【新たな不具合】												

点検・整備詳細記録表

施設名

記録年月日 令和 年 月 日

点検結果の評価基準	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは清掃にて対応できる。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある（調整、給油、塗装などが必要）。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応（取替、更新、整備）が必要である。

※不具合・故障等の復旧を確認した場合、処置結果にその旨を記載すること（評価は○とする）。

設備区分	機器名	写真番号	評価	内容状況	処置結果

様式3

運転記録表（1）

施設名 厚別西川 救急排水機場 記録年月日 令和 年 月 日（天候 ）（外気温度 ℃）（室内温度 ℃）

運転方式		<input type="checkbox"/> 通常運転		<input type="checkbox"/> 管理運転								
管理運転方式		<input type="checkbox"/> 全水量運転		<input type="checkbox"/> バイパス管循環運転		<input type="checkbox"/> 締切運転		<input type="checkbox"/> 機器単独運転				
燃料使用量		計 (L)		主エンジン (L)		自家発電エンジン (L)		燃料給油量 (L)		総 運 転 排 水 量		
潤滑油給油量		計 (L)		主エンジン (L)		減速機 (L)		その他 (L)		(千m3)		
運転回数		1		2		3		4		運転 操作 時間 アワーメータ 等の読み (運転終了時)		
水 位	内水位 (m)	→		→		→		→				
	外水位 (m)	→		→		→		→				
機器名		時刻		時刻		時刻		時刻		計		
運 転 操 作	主ポンプ	No.	:	～	:	:	～	:	:	～	:	Hr
		No.	:	～	:	:	～	:	:	～	:	Hr
	自家発電機	No.	:	～	:	:	～	:	:	～	:	Hr
		No.	:	～	:	:	～	:	:	～	:	Hr
	ゲート (開閉)	No.	:	～	:	:	～	:	:	～	:	Hr
		No.	:	～	:	:	～	:	:	～	:	Hr

施設名 発寒古川 救急排水機場 記録年月日 令和 年 月 日（天候 ）（外気温度 ℃）（室内温度 ℃）

運転方式		<input type="checkbox"/> 通常運転		<input type="checkbox"/> 管理運転								
管理運転方式		<input type="checkbox"/> 全水量運転		<input type="checkbox"/> バイパス管循環運転		<input type="checkbox"/> 締切運転		<input type="checkbox"/> 機器単独運転				
燃料使用量		計 (L)		主エンジン (L)		自家発電エンジン (L)		燃料給油量 (L)		総 運 転 排 水 量		
潤滑油給油量		計 (L)		主エンジン (L)		減速機 (L)		その他 (L)		(千m3)		
運転回数		1		2		3		4		運転 操作 時間 アワーメータ 等の読み (運転終了時)		
水 位	内水位 (m)	→		→		→		→				
	外水位 (m)	→		→		→		→				
機器名		時刻		時刻		時刻		時刻		計		
運 転 操 作	主ポンプ	No.	:	～	:	:	～	:	:	～	:	Hr
		No.	:	～	:	:	～	:	:	～	:	Hr
		No.	:	～	:	:	～	:	:	～	:	Hr
		No.	:	～	:	:	～	:	:	～	:	Hr
	自家発電機	No.	:	～	:	:	～	:	:	～	:	Hr
		No.	:	～	:	:	～	:	:	～	:	Hr
	ゲート (開閉)	No.	:	～	:	:	～	:	:	～	:	Hr
		No.	:	～	:	:	～	:	:	～	:	Hr

様式3

運転記録表（1）

施設名 6 線幹道排水水門 記録年月日 令和 年 月 日（天候 ） （外気温度 ℃）（室内温度 ℃）

運転方式		<input type="checkbox"/> 通常運転		<input type="checkbox"/> 管理運転									
管理運転方式		<input type="checkbox"/> 全水量運転		<input type="checkbox"/> バイパス管循環運転		<input type="checkbox"/> 締切運転		<input type="checkbox"/> 機器単独運転					
燃料使用量		計 (L)		主エンジン (L)		自家発電エンジン (L)		燃料給油量 (L)		総 運 転 排 水 量			
潤滑油給油量		計 (L)		主エンジン (L)		減速機 (L)		その他 (L)		(千m3)			
運転回数			1		2		3		4		運転 操作 時間	アワーメータ 等の読み (運転終了時)	
水 位	内水位 (m)		→		→		→		→				
	外水位 (m)		→		→		→		→				
機器名			時刻		時刻		時刻		時刻		計		
運 転 操 作	主ポンプ	No.	:	～	:	:	～	:	:	～	:		Hr
		No.	:	～	:	:	～	:	:	～	:		Hr
		No.	:	～	:	:	～	:	:	～	:		Hr
		No.	:	～	:	:	～	:	:	～	:		Hr
		No.	:	～	:	:	～	:	:	～	:		Hr
		No.	:	～	:	:	～	:	:	～	:		Hr
		No.	:	～	:	:	～	:	:	～	:		Hr
		No.	:	～	:	:	～	:	:	～	:		Hr
	自家発電機	No.	:	～	:	:	～	:	:	～	:		Hr
		No.	:	～	:	:	～	:	:	～	:		Hr
		No.	:	～	:	:	～	:	:	～	:		Hr
	ゲート (開閉)	No.	:	～	:	:	～	:	:	～	:		Hr
		No.	:	～	:	:	～	:	:	～	:		Hr
		No.	:	～	:	:	～	:	:	～	:		Hr
		No.	:	～	:	:	～	:	:	～	:		Hr
No.		:	～	:	:	～	:	:	～	:		Hr	
No.		:	～	:	:	～	:	:	～	:		Hr	

様式4

運転記録表 (2)

施設名

記録年月日 令和 年 月 日

[illegible]

施設名

記録年月日 令和 年 月 日

[illegible]

様式5

故障記録表

施設名 _____ 記録年月日 令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日 記録者氏名 _____

故障発生 年月日時				故障発生までの 運転時間				修理完了 年月日			
故障発生 設備・箇所	・故障設備名					故障原因・ 対策内容	・故障原因				
	・故障状況						・対策内容				
故障状況 (写真・図面)						改良要望事項等					
							施工業者名				施工金額 (税込)

様式6

設備の改良・更新記録表

施設名 記録年月日 令和 年 月 日 記録者氏名

[illegible]

<div>余白</div>	<div>〔写真番号〕 No.</div>
	<div>〔施設名称〕</div>
	<div>〔撮影箇所・機器名称〕</div>
	<div>〔状況説明〕</div>

<div>余白</div>	<div>〔写真番号〕 No.</div>
	<div>〔施設名称〕</div>
	<div>〔撮影箇所・機器名称〕</div>
	<div>〔状況説明〕</div>

<div>余白</div>	<div>〔写真番号〕 No.</div>
	<div>〔施設名称〕</div>
	<div>〔撮影箇所・機器名称〕</div>
	<div>〔状況説明〕</div>

点検・整備チェックシート

河川ポンプ設備・ゲート設備

施設名：

厚別西川	救急排水機場
発寒古川	救急排水機場
ポンプ設備基地	

点検月日：令和

 年

 月

 日

点検方法：

 点検

【概要】

- (1) 本点検・整備チェックシートは、「河川ポンプ設備点検・整備標準要領(案)(国交省)(平成28年3月)」及び「河川用ゲート設備点検・整備標準要領(案)(平成28年3月)」の添付資料「点検・整備チェックシート」を基本としている。
- (2) 実際の運用(実点検)においては、本チェックシートに示す機器、点検部位(点検内容)の内、当該排水機場において実装されている機器、点検部位(点検内容)について実施する。致命的機器・部品については、チェックシートで網掛けの上、「致」と示されている。
- (3) 点検方法には、月点検(出水期、非出水期)、年点検、運転時点検、臨時点検、定期整備があり、その内容は以下のとおりである。

【点検方法】

- (1) 月点検(出水期)は出水期点検項目とする。月点検(非出水期)は、回収後の保管施設(ポンプ設備基地)における非出水期点検項目とし、発電機設備、天井クレーン以外は目視点検とする。
- (2) 年点検は、全設備について設備機能の確認、劣化、損傷の発見のため年1回実施するものである。なお、機器の運転時に実施する点検項目は()書きで示しているが、管理運転ができない場合は月点検の目視点検項目を実施する。
- (3) 運転時点検は、実運転時の実施に際して、運転操作に支障がないか、運転時の異常はないか、運転終了後に次の運転に支障がないか等の確認を行うものである。
- (4) 回収時点検は、冬期間の非出水期に機場からポンプ類を撤去し、基地へ保管する回収作業を行う際に、設備機能の確認、劣化、損傷の有無の確認、清掃などを行うものである。
- (5) 臨時点検は、地震等の発生時において、原則、目視点検にて異常の有無の確認を主に行うものである。
- (6) 定期整備は、機器の健全度評価結果や過去の実績等により実施時期を定めて行う手法による分解整備等の内容である。

【記載方法】

- (1) 機器が複数ある場合は、号機毎に点検結果欄に記載すること。なお、点検結果欄が個々に無い場合は、摘要欄に点検結果を記載すること。
- (2) 点検の結果、不具合・故障が生じている場合(△、×判定)は、その内容について摘要欄に記載すること。また、別途、点検・整備詳細記録表には不具合項目一覧表、故障記録表には各不具合項目の状況等報告書を各々指定された様式に作成すること。なお、定期整備の点検項目は非表示としている。

点検実施日 令和 ○ 年 □ 月 △ 日 1 / 5

機器名: ポンプユニット、吐出弁、吐出管、水位計、付属設備

※1 点検場所(該当する場所の欄に"○"を記入すること。)

※3 点検結果の判定基準(点検結果は、該当する点検項目の欄に記入すること)

○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応（修繕・取替・更新）が必要である。

※ Mは、原則として測定器を持ち込んで計測するものとする。

装置区分	点検場所 (※1)		点検部位	点検項目	点検方法及び点検結果(※2)、(※3)														摘要					
	機場	基地			(定期)月点検				(定期)年点検		運転時点検		回収時確認		臨時点検									
					出水期		非出水期		点検		点検		点検		点検									
					方法	点検結果	方法	点検結果	方法	点検結果	方法	点検結果	方法	点検結果	方法	点検結果								
						No.1	No.2		No.1	No.2		No.1	No.2		No.1	No.2		No.1	No.2					
ポンプユニット	ー	ー	全 般	発錆・汚損	E			E			E			—			E			E				
				振動	—			—			H			H			H			—				
				音	—			—			S			S			S			—				
	○	ー	コラムパイプ	空気抜弁	E			—			E			E			E			E				
				腐食・塗装	E			—			E			—			E			E				
				ケーブル支持台	E			—			E			—			E			E				
				引上装置	D			—			D			—			D			—				
		ポンプケーシング、インペラ	腐食・塗装	—			E			E			—			E			—					
			摩耗	—			—			—			—			—			—					
			吊り金具	—			—			E			—			E			—					
		メカニカルシール	油量・質	—			—			E			—			—			—					
			摩耗	—			—			—			—			—			—					
			油交換	—			—			2年毎			—			—			—					
		モータ	絶縁抵抗	—			—			M			—			—			—					
			腐食・塗装	—			—			E			—			E			—					
			入力電流	—			—			E			E			—			—					
		端子台	シール状態	—			—			E			—			E			—					
		軸 受	油交換	—			—			2年毎			—			—			—					
			磨耗	—			—			—			—			—			—					
		軸	腐食	—			—			—			—			—			—					
			変形	—			—			—			—			—			—					
		キャブタイヤケーブル、ケーブルホルダー	損傷・劣化	E			E			E			—			C			E					
			シール状態	—			—			E			E			E			—					
		サーマルプロテクター、浸水検知器	導通	—			—			M			—			—			—					
		工 具	発錆・汚損	—			E			E			—			E			—					
			員数	—			—			E			—			E			—					
特記事項	注1) 機場に設置する機器類及び丘珠基地に保管する機器類を点検すること。 注2) 非出水期は、丘珠基地に保管している機器を点検すること。 注3) 丘珠基地に一時保管された機器は、自家発設備を除き、目視点検を基本とする。 注4) 年点検時の測定結果については、別紙「測定記録表」に保存すること。																							

装置区分	点検場所(※1)		点検部位	点検項目	点検方法及び点検結果(※2)、(※3)														摘要				
	機場	基地			(定期)月点検						(定期)年点検		運転時		回収時		臨時						
					出水期			非出水期			点検		点検		確認		点検						
					方法	点検結果		方法	点検結果		方法	点検結果		方法	点検結果		方法	点検結果					
						No.1	No.2		No.1	No.2		No.1	No.2		No.1	No.2		No.1		No.2	No.1	No.2	
吐出弁	○	ー	弁 体	発錆・汚損	E			—			E			—			C			E			
			水密ゴム	劣化	—			—			—			—			—			—			
			パッキン類	劣化、漏れ	—			—			E			E			—			—			
			減速機構	グリース	—			—			—			E			—			—			
				回転のなめらかさ	E			—			E			—			C			E			
吐出配管			ホース	漏れ	—			—			—			E			E			—			
				摩耗、劣化	—			—			E			—			C			—			
			ホースリール	発錆・汚損	—			—			E			—			C			E			
				ドラムの回転	—			—			D			—			D			—			
				ストoppaの状態	—			—			D			—			D			—			
			ホースカップリング	漏れ	—			—			—			E			E			—			
				発錆・汚損	E			—			E			—			C			E			
			鋼管	漏れ	—			—			—			E			E			—			
				発錆・汚損	E			—			E			—			C			E			
パッキン類	—				—			E			—			—			—						
接地端子盤	○	ー	接 地	接地抵抗	—			—			M			—			—			—			
				発錆・汚損	E			—			E			—			E			E			
電極式水位計	○	ー	全般	取付状態	E			—			E			—			E			E			
				発錆・汚損	E			—			E			—			E			E			
	○	ー	電極棒	汚損	E			—			E			—			E			—			
付属設備	○	ー	吸込槽	土砂の堆積	E			—			E			—			E			E			
				水位	E			—			E			E			E			E			
			スクリーン	発錆・汚損	E			—			E			—			E			E			
				異物	C			—			C			C			C			—			
特記事項	注1) 機場に設置する機器類及び丘珠基地に保管する機器類を点検すること。 注2) 非出水期は、丘珠基地に保管している機器を点検すること。 注3) 丘珠基地に一時保管された機器は、自家発設備を除き、目視点検を基本とする。 注4) 年点検時の測定結果については、別紙「測定記録表」に保存すること。																						

自家発電機、ディーゼル機関、
操作盤、接地端子箱

機器名: 電源設備、現場監視操作設備、系統機器設備

機種形式: 車載型ディーゼル発電機

※1 点検場所(該当する場所の欄に“○”を記入すること。)

※2 点検方法 (() 書さは運転時実施)

X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増縮	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—			点検対象外

※ Eは、取付けられている計器の読みを含むものとする。

※ Mは、原則として測定器を持ち込んで計測するものとする。

※3 点検結果の判定基準(点検結果は、該当する点検項目の欄に記入すること)	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。

装置区分	点検場所(※1)		点検部位	点検項目	点検方法及び点検結果(※2)、(※3)												摘要	
	機場	基地			(定期)月点検				(定期)年点検		運転時点検		回収時確認		臨時点検			
					出水期		非出水期											
					方法	点検結果	方法	点検結果	方法	点検結果	方法	点検結果	方法	点検結果	方法	点検結果		
発電機			全般	発錆・汚損	E		E		E		—		E		E			
				音	S		S		S		S		S		—			
				絶縁抵抗	—		—		M		—		—		—			
				油量・質	E		E		E		—		E		E			
			軸受(グリース)	振動	H		H		H		H		H		—			
				温度	E		E		E		E		E		E			
		油交換		—		—		2年毎		—		—		—				
始動発電機盤			全般	函の発錆・汚損	E		E		E		—		E		E			
				扉の状態	H		H		H		—		H		—			
				操作スイッチ、切替スイッチ、押しボタン	D		D		D		—		D		—			
				配線用遮断器	—		—		E		—		—		—			
				補助リレー	—		—		E		—		—		—			
				保護リレー	—		—		D		—		—		—			
				表示灯、警報表示の点灯状態	E		E		E		E		E		E			
				ブザー	S		S		S		S		S		—			
				指示計	E		E		E		E		E		E			
				盤内照明	—		—		E		E		—		—			
				端子台	—		—		E		—		—		—			
				配線ケーブル、接続端子の状態	—		—		E		—		—		—			
				絶縁抵抗	—		—		M		—		—		—			
				整流器	E		E		E		E		E		E			
				ヒューズの断	—		—		E		—		—		—			
バッテリー			全般	架台の汚損	E		E		E		—		E		E			
				槽ケース	E		E		E		—		E		E			
				液面	E		E		E		—		E		E			
				比重	M		M		M		—		M		—			
				ユニット電圧	M		M		M		—		M		—			
				電極の損耗	E		E		E		—		E		E			
				セパレーターの損耗	E		E		E		—		E		E			
				端子の状態	H		H		E		—		E		—			
始動電気系統			セルモータ	作動	E		E		E		E		E		—			
				摩耗・劣化	—		—		E		—		—		—			
				ブラシの状態	—		—		E		—		—		—			
			電磁スイッチ	作動・劣化	E		E		E		E		E		—			
				シリンダヘッド	タペットの間隙	—		—		A		—		—		—		
					弁の摩耗・パネのへたり	—		—		—		—		—		—		
		ヘッドガasketの劣化	—			—		—		—		—		—				
特記事項	注1) 機場に設置する機器類及び丘珠基地に保管する機器類を点検すること。 注2) 非出水期は、丘珠基地に保管している機器を点検すること。 注3) 丘珠基地に一時保管された機器は、自家発設備を除き、目視点検を基本とする。 注4) 年点検時の測定結果については、別紙「測定記録表」に保存すること。																	

装置区分	点検場所 (※1)		点検部位	点検項目	点検方法及び点検結果(※2)、(※3)										摘要						
	機	場			(定期)月点検		(定期)年点検		運転時点検		回収時確認		臨時点検								
					出水期	非出水期	方法	点検結果	方法	点検結果	方法	点検結果	方法	点検結果		方法	点検結果				
機関本体			クランク室	コンロッドメタル	—		—		—		—		—		—						
				クランクシャフト	—		—		—		—		—		—						
				クランクシャフト軸受	—		—		—		—		—		—						
				ボルトの緩み	—		—		—		—		—		—						
			過給機(ターボ)	エレメント交換	—		—		5年毎		—		—		—		—				
				振動	—		—		H		H		H		—		—				
				音	—		—		S		S		S		—		—				
				本体	—		—		—		—		—		—		—				
				配管系統	—		—		—		—		—		—		—				
			発電機 (オルタネータ)	駆動ベルト	E		E		E		E		E		E		—				
計器			油圧計	零指針	E		E		E		E		E		E		—				
				配管	E		E		E		E		E		E		—				
			温度計	指示	E		E		E		E		E		E		E		—		
			回転計	指示	E		E		E		E		E		E		E		—		
			速度スイッチ	作動	—		—		E		—		—		—		—		—		
保護回路			各保護回路 による機関停 止確認	冷却水温	—		—		D		—		—		—		—				
				潤滑油圧	—		—		D		—		—		—		—				
				過速度	—		—		D		—		—		—		—				
排気管				腐食劣化	—		—		E		—		—		—		—				
潤滑油系統			機関 オイルパン	油量・質	E		E		E		E		E		E		E				
				油交換	—		—		2年毎		—		—		—		—				
			油濾過器	エレメント交換	—		—		5年毎		—		—		—		—				
				内部清掃	—		—		C		—		C		—		—				
			配管	漏れ	E		E		E		E		E		E		—		—		
				配管の腐食	—		—		E		—		E		—		—		—		
			油圧スイッチ	作動	—		—		D		E		—		—		—		—		
			冷却水系統			冷却水 ポンプ	振動	—		—		H		H		—		—		—	
摩耗・劣化	—						—		—		—		—		—		—				
駆動ベルト	E						E		E		—		E		—		—				
配管	空気抜き	—					—		E		E		E		—		—				
	バルブの開閉	—					—		E		—		E		—		—				
	配管の腐食	—					—		E		—		E		—		—				
	バルブの腐食	—					—		E		—		E		—		—				
	漏れ	E					E		E		E		E		—		—				
潤滑油冷却 配管	漏れ	E					E		E		E		E		—		—				
	腐食・劣化	—					—		—		—		—		—		—				
水温スイッチ	作動	—					—		D		E		—		—		—				
ラジエータ	水量・漏れ	E					E		E		E		E		E		E				
	汚れ	E					E		E		—		E		—		—				
	キャップの漏れ	E					E		E		E		E		—		—				
	腐食・劣化	E					E		E		—		E		—		—				
	ホース劣化	E					E		E		—		E		—		—				
	ファンベルト調節・劣化	E		E		E		E		E		—		—							
	不凍液交換	—		—		5年毎		—		—		—		—							
特記事項	注1) 機場に設置する機器類及び丘珠基地に保管する機器類を点検すること。 注2) 非出水期は、丘珠基地に保管している機器を点検すること。 注3) 丘珠基地に一時保管された機器は、自家発設備を除き、目視点検を基本とする。 注4) 年点検時の測定結果については、別紙「測定記録表」に保存すること。																				

装置区分	点検場所(※1)		点検部位	点検項目	点検方法及び点検結果(※2)、(※3)										摘要		
	機	場			(定期)月点検				(定期)年点検		運転時点検		回収時確認			臨時点検	
					出水期		非出水期		年点検		点検		確認			点検	
					方法	点検結果	方法	点検結果	方法	点検結果	方法	点検結果	方法	点検結果		方法	点検結果
燃料系統			燃料濾過器	エレメント交換	—		—		5年/年		—		—		—		
				内部清掃	—		—		C		—		—		—		
			燃料噴射ポンプ	ガバナレバーの動き	—		—		E		E		—		—		
				エア抜き	—		—		A		—		—		—		
				ブランジヤ吐出弁劣化	—		—		—		—		—		—		
			高圧管	漏れ(亀裂)	E		E		E		E		E		—		
			燃料弁	噴霧テスト	—		—		A		—		—		—		
				摩耗	—		—		—		—		—		—		
			補助燃料タンク	腐食・汚損	—		—		E		—		E		—		
				漏れ	E		E		A		E		E		—		
				ドレン抜き	—		—		A		—		—				
運転状況				運転音	—		—		S		S		S		—		
				排気色	E		E		E		E		E		—		
				ミストの状況	E		E		E		E		E		—		
				油圧	E		E		E		E		E		—		
				冷却水温度	E		E		E		E		E		—		
				回転数	E		E		E		E		E		—		
操作盤ほか			全般	函の発錆・汚損	E		E		E		—		E		E		
				扉の状態	H		H		H		—		H		—		
				操作スイッチ、切替スイッチ、押しボタン	—		—		D		—		—		—		
				押ボタン	—		—		D		—		—		—		
				配線用遮断器	E		E		E		—		E		—		
				電磁接触器	E		E		E		—		E		—		
				補助リレー	E		E		E		—		E		—		
				保護リレー	E		E		E		—		E		—		
				表示灯、警報表示の点灯状態	—		—		—		E		—		—		
				ブザー	—		—		—		S		—		—		
				指示計	—		—		—		E		—		—		
				盤内照明	—		—		—		E		—		—		
				コネクタの状態	E		E		E		—		E		E		
				絶縁抵抗	—		—		M		—		—		—		
				ヒューズの断	—		—		E		—		E		—		
			ケーブルリール	発錆・汚損	E		E		E		—		E		E		
				ドラムの回転	—		—		D		—		—		—		
				ストッパーの状態	—		—		D		—		—		—		
			ケーブル	汚損・損傷	E		E		E		—		E		E		
				端子の状態	E		E		E		—		E		E		
コネクタの状態	E			E		E		—		E		E					
絶縁抵抗	—			—		M		—		—		—					
特記事項	注1) 機場に設置する機器類及び丘珠基地に保管する機器類を点検すること。 注2) 非出水期は、丘珠基地に保管している機器を点検すること。 注3) 丘珠基地に一時保管された機器は、自家発設備を除き、目視点検を基本とする。 注4) 年点検時の測定結果については、別紙「測定記録表」に保存すること。																

ポンプユニット、吐出弁、吐出管、
水位計、付属設備

機器名: ポンプユニット、吐出弁、吐出管、水位計、付属設備

機種形式: コラム型水中ポンプ

※1 点検場所(該当する場所の欄に"○"を記入すること。)

※2 点検方法 (()書きは運転時実施)

X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増締	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

※ Eは、取付けられている計器の読みを含むものとする。

※ Mは、原則として測定器を持ち込んで計測するものとする。

※3 点検結果の判定基準(点検結果は、該当する点検項目の欄に記入すること)

○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。

装置 区分	点検 場所 (※1)		点検部位	点検項目	点検方法及び点検結果(※2)、(※3)												摘要								
	機 場	基 地			(定期)月点検				(定期) 年点検		運転時 点検		回収時 確認		臨時 点検										
					出水期		非出水期		点検 結果		点検 結果		点検 結果		点検 結果			点検 結果							
					方 法	点検 結果 No.1 No.2	方 法	点検 結果 No.1 No.2	方 法	点検 結果 No.1 No.2	方 法	点検 結果 No.1 No.2	方 法	点検 結果 No.1 No.2	方 法	点検 結果 No.1 No.2		方 法	点検 結果 No.1 No.2						
ポン プ ユ ニ ット	—	—	全 般	発錆・汚損	E			E			E			—			E			E					
				振動	—			—			H			H			H			—					
				音	—			—			S			S			S			—					
	○	—	コラムパイプ	空気抜弁	E			—			E			E			E			E					
				腐食・塗装	E			—			E			—			E			E					
				ケーブル支持台	E			—			E			—			E			E					
				引上装置	D			—			D			—			D			—					
			ポンプケー シング、インペラ	腐食・塗装	—			E			E			—			E			—					
				摩耗	—			—			—			—			—			—					
				吊り金具	—			—			E			—			E			—					
		メカニカル シール	油量・質	—			—			E			—			—			—						
			摩耗	—			—			—			—			—			—						
			油交換	—			—			2年毎			—			—			—						
		モータ	絶縁抵抗	—			—			M			—			—			—						
			腐食・塗装	—			—			E			—			E			—						
			入力電流	—			—			E			E			—			—						
		端子台	シール状態	—			—			E			—			E			—						
		軸 受	油交換	—			—			2年毎			—			—			—						
			磨耗	—			—			—			—			—			—						
		軸	腐食	—			—			—			—			—			—						
			変形	—			—			—			—			—			—						
		キャブタイヤケー ブル・ケーブルホル ダー	損傷・劣化	E			E			E			—			C			E						
			シール状態	—			—			E			E			E			—						
		サーマルプロ テクター、浸 水検知器	導通	—			—			M			—			—			—						
		工 具	発錆・汚損	—			E			E			—			E			—						
			員数	—			—			E			—			E			—						
特記 事項	注1) 機場に設置する機器類及び丘珠基地に保管する機器類を点検すること。 注2) 非出水期は、丘珠基地に保管している機器を点検すること。 注3) 丘珠基地に一時保管された機器は、自家発設備を除き、目視点検を基本とする。 注4) 年点検時の測定結果については、別紙「測定記録表」に保存すること。																								

装置区分	点検場所(※1)		点検部位	点検項目	点検方法及び点検結果(※2)、(※3)												摘要							
	機場	基地			(定期)月点検				(定期)年点検		運転時点検		回収時確認		臨時点検									
					出水期		非出水期		方法	点検結果	方法	点検結果	方法	点検結果	方法	点検結果								
					方法	点検結果 No.1 No.2	方法	点検結果 No.1 No.2										方法	点検結果 No.1 No.2	方法	点検結果 No.1 No.2	方法	点検結果 No.1 No.2	
吐出弁	○	ー	弁 体	発錆・汚損	E			—			E			—			C			E				
			水密ゴム	劣化	—			—			—			—			—			—				
			パッキン類	劣化、漏れ	—			—			E			E			—			—				
			減速機構	グリース	—			—			—			E			—			—				
				回転のなめらかさ	E			—			E			—			C			E				
吐出配管			ホース	漏れ	—			—			—			E			E			—				
				摩耗、劣化	—			—			E			—			C			—				
			ホースリール	発錆・汚損	—			—			E			—			C			E				
				ドラムの回転	—			—			D			—			D			—				
				ストッパの状態	—			—			D			—			D			—				
			ホースカップリング	漏れ	—			—			—			E			E			—				
				発錆・汚損	E			—			E			—			C			E				
			鋼管	漏れ	—			—			—			E			E			—				
				発錆・汚損	E			—			E			—			C			E				
	パッキン類	—			—			E			—			—			—							
接地端子盤	○	ー	接 地	接地抵抗	—			—			M			—			—			—				
				発錆・汚損	E			—			E			—			E			E				
電極式水位計	○	ー	全般	取付状態	E			—			E			—			E			E				
				発錆・汚損	E			—			E			—			E			E				
	○	ー	電極棒	汚損	E			—			E			—			E			—				
付属設備	○	ー	吸込槽	土砂の堆積	E			—			E			—			E			E				
				水位	E			—			E			E			E			E				
			スクリーン	発錆・汚損	E			—			E			—			E			E				
				異物	C			—			C			C			C			—				
特記事項	注1) 機場に設置する機器類及び丘珠基地に保管する機器類を点検すること。 注2) 非出水期は、丘珠基地に保管している機器を点検すること。 注3) 丘珠基地に一時保管された機器は、自家発設備を除き、目視点検を基本とする。 注4) 年点検時の測定結果については、別紙「測定記録表」に保存すること。																							

自家発電機、ディーゼル機関、
操作盤、接地端子箱

機器名: 電源設備、現場監視操作設備、系統機器設備

機種形式: 車載型ディーゼル発電機

※1 点検場所(該当する場所の欄に"○"を記入すること。)

※2 点検方法 (()書きは運転時実施)

X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増締	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

※ Eは、取付けられている計器の読みを含むものとする。

※ Mは、原則として測定器を持ち込んで計測するものとする。

※3 点検結果の判定基準(点検結果は、該当する点検項目の欄に記入すること)

○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応（修繕・取替・更新）が必要である。

装置 区分	点検 場所 (※1)		点検部位	点検項目	点検方法及び点検結果(※2)、(※3)												摘要	
	機 場	基 地			(定期)月点検				(定期)年点検		運転時 点検		回収時 確認		臨時 点検			
					出水期		非出水期											
					方 法	点 検 結 果	方 法	点 検 結 果	方 法	点 検 結 果	方 法	点 検 結 果	方 法	点 検 結 果	方 法	点 検 結 果		
発 電 機			全般	発錆・汚損	E		E		E		—		E		E			
				音	S		S		S		S		S		—			
				絶縁抵抗	—		—		M		—		—		—			
				油量・質	E		E		E		—		E		E			
			軸受 (グリス)	振動	H		H		H		H		H		—			
				温度	E		E		E		E		E		E			
				油交換	—		—		2年毎		—		—		—			
始 動 発 電 機 盤			全般	函の発錆・汚損	E		E		E		—		E		E			
				扉の状態	H		H		H		—		H		—			
				操作スイッチ、切替スイッチ、押しボタン	D		D		D		—		D		—			
				配線用遮断器	—		—		E		—		—		—			
				補助リレー	—		—		E		—		—		—			
				保護リレー	—		—		D		—		—		—			
				表示灯、警報表示の点灯状態	E		E		E		E		E		E			
				ブザー	S		S		S		S		S		—			
				指示計	E		E		E		E		E		E			
				盤内照明	—		—		E		E		—		—			
				端子台	—		—		E		—		—		—			
				配線ケーブル、接続端子の状態	—		—		E		—		—		—			
				絶縁抵抗	—		—		M		—		—		—			
				整流器	E		E		E		E		E		E			
				ヒューズの断	—		—		E		—		—		—			
バ ッ テ リ ー			全般	架台の汚損	E		E		E		—		E		E			
				槽ケース	E		E		E		—		E		E			
				液面	E		E		E		—		E		E			
				比重	M		M		M		—		M		—			
				ユニット電圧	M		M		M		—		M		—			
				電極の損耗	E		E		E		—		E		E			
				セパレーターの損耗	E		E		E		—		E		E			
				端子の状態	H		H		E		—		E		—			
始 動 電 気 系 統			セルモータ	作動	E		E		E		E		E		—			
				摩耗・劣化	—		—		E		—		—		—			
				ブラシの状態	—		—		E		—		—		—			
			電磁スイッチ	作動・劣化	E		E		E		E		E		—			
				シリンダヘッド	タペットの間隙	—		—		A		—		—		—		
					弁の摩耗・バネのへたり	—		—		—		—		—				
					ヘッドガスケットの劣化	—		—		—		—		—		—		
特記事項	注1) 機場に設置する機器類及び丘珠基地に保管する機器類を点検すること。 注2) 非出水期は、丘珠基地に保管している機器を点検すること。 注3) 丘珠基地に一時保管された機器は、自家発電設備を除き、目視点検を基本とする。 注4) 年点検時の測定結果については、別紙「測定記録表」に保存すること。																	

装置区分	点検場所(※1)		点検部位	点検項目	点検方法及び点検結果(※2)、(※3)												摘要		
	機場	基地			(定期)月点検				(定期)年点検		運転時点検		回収時確認		臨時点検				
					出水期		非出水期		方法	点検結果	方法	点検結果	方法	点検結果	方法	点検結果		方法	点検結果
					方法	点検結果	方法	点検結果											
機関本体			クランク室	コンロッドメタル	—		—		—		—		—		—				
				クランクシャフト	—		—		—		—		—		—				
				クランクシャフト軸受	—		—		—		—		—		—				
				ボルトの緩み	—		—		—		—		—		—				
			過給機(ターボ)	エレメント交換	—		—		5年毎		—		—		—		—		
				振動	—		—		H		H		H		—				
				音	—		—		S		S		S		—				
				本体	—		—		—		—		—		—				
				配管系統	—		—		—		—		—		—		—		
			発電機(オルタネータ)	駆動ベルト	E		E		E		E		E		E		—		
計器			油圧計	零指針	E		E		E		E		E		E		—		
				配管	E		E		E		E		E		E		—		
			温度計	指示	E		E		E		E		E		E		—		
			回転計	指示	E		E		E		E		E		E		—		
			速度スイッチ	作動	—		—		E		—		—		—		—		
保護回路			各保護回路による機関停止確認	冷却水温	—		—		D		—		—		—		—		
				潤滑油圧	—		—		D		—		—		—		—		
				過速度	—		—		D		—		—		—		—		
排気管				腐食劣化	—		—		E		—		—		—		—		
潤滑油系統			機関オイルパン	油量・質	E		E		E		E		E		E		E		
				油交換	—		—		2年毎		—		—		—		—		
			油濾過器	エレメント交換	—		—		5年毎		—		—		—		—		
				内部清掃	—		—		C		—		C		—		—		
			配管	漏れ	E		E		E		E		E		E		—		
				配管の腐食	—		—		E		—		E		—		—		
			油圧スイッチ	作動	—		—		D		E		—		—		—		
冷却水系統			冷却水ポンプ	振動	—		—		H		H		—		—		—		
				摩耗・劣化	—		—		—		—		—		—		—		
				駆動ベルト	E		E		E		—		E		—		—		
			配管	空気抜き	—		—		E		E		E		—		—		
				バルブの開閉	—		—		E		—		E		—		—		
				配管の腐食	—		—		E		—		E		—		—		
				バルブの腐食	—		—		E		—		E		—		—		
				漏れ	E		E		E		E		E		—		—		
			潤滑油冷却配管	漏れ	E		E		E		E		E		—		—		
				腐食・劣化	—		—		—		—		—		—		—		
			水温スイッチ	作動	—		—		D		E		—		—		—		
			ラジエータ	水量・漏れ	E		E		E		E		E		E		E		
				汚れ	E		E		E		—		E		—		—		
				キャップの漏れ	E		E		E		E		E		—		—		
				腐食・劣化	E		E		E		—		E		—		—		
		ホース劣化		E		E		E		—		E		—		—			
		ファンベルト調節・劣化		E		E		E		E		E		—		—			
		不凍液交換		—		—		5年毎		—		—		—		—			
特記事項	注1) 機場に設置する機器類及び丘珠基地に保管する機器類を点検すること。 注2) 非出水期は、丘珠基地に保管している機器を点検すること。 注3) 丘珠基地に一時保管された機器は、自家発設備を除き、目視点検を基本とする。 注4) 年点検時の測定結果については、別紙「測定記録表」に保存すること。																		

装置区分	点検場所(※1)		点検部位	点検項目	点検方法及び点検結果(※2)、(※3)										摘要		
	機場	基地			(定期)月点検				(定期)年点検		運転時点検		回収時確認			臨時点検	
					出水期		非出水期		方法	点検結果	方法	点検結果	方法	点検結果		方法	点検結果
燃料系統			燃料濾過器	エレメント交換	—		—		5年毎		—		—		—		
				内部清掃	—		—		C		—		—		—		
			燃料噴射ポンプ	ガバナレバーの動き	—		—		E		E		—		—		
				エア抜き	—		—		A		—		—		—		
				ブランジャ吐出弁劣化	—		—		—		—		—		—		
			高圧管	漏れ(亀裂)	E		E		E		E		E		—		
			燃料弁	噴霧テスト	—		—		A		—		—		—		
				摩耗	—		—		—		—		—		—		
			補助燃料タンク	腐食・汚損	—		—		E		—		E		—		
				漏れ	E		E		A		E		E		—		
ドレン抜き	—			—		A		—		—		—					
運転状況			運転音	—		—		S		S		S		—			
			排気色	E		E		E		E		E		—			
			ミストの状況	E		E		E		E		E		—			
			油圧	E		E		E		E		E		—			
			冷却水温度	E		E		E		E		E		—			
			回転数	E		E		E		E		E		—			
操作盤ほか			全般	函の発錆・汚損	E		E		E		—		E		E		
				扉の状態	H		H		H		—		H		—		
				操作スイッチ、切替スイッチ、押しボタン	—		—		D		—		—		—		
				配線用遮断器	E		E		E		—		E		—		
				電磁接触器	E		E		E		—		E		—		
				補助リレー	E		E		E		—		E		—		
				保護リレー	E		E		E		—		E		—		
				表示灯、警報表示の点灯状態	—		—		—		E		—		—		
				ブザー	—		—		—		S		—		—		
				指示計	—		—		—		E		—		—		
				盤内照明	—		—		—		E		—		—		
				コネクタの状態	E		E		E		—		E		E		
				絶縁抵抗	—		—		M		—		—		—		
				ヒューズの断	—		—		E		—		E		—		
			ケーブルリール	発錆・汚損	E		E		E		—		E		E		
				ドラムの回転	—		—		D		—		—		—		
				ストッパーの状態	—		—		D		—		—		—		
			ケーブル	汚損・損傷	E		E		E		—		E		E		
				端子の状態	E		E		E		—		E		E		
				コネクタの状態	E		E		E		—		E		E		
絶縁抵抗	—			—		M		—		—		—					
特記事項	注1) 機場に設置する機器類及び丘珠基地に保管する機器類を点検すること。 注2) 非出水期は、丘珠基地に保管している機器を点検すること。 注3) 丘珠基地に一時保管された機器は、自家発設備を除き、目視点検を基本とする。 注4) 年点検時の測定結果については、別紙「測定記録表」に保存すること																

施設名：ポンプ設備基地

点検実施日: 令和 ○ 年 □ 月 △ 日 1 / 2

付属設備
建築設備等

機器名:

機種形式:

※2 点検方法（（ ）書きは運転時実施）

X	交換	C	清掃	W	分解	F	目視
---	----	---	----	---	----	---	----

X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増縮	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

注) Mは、原則として測定器を持ち込んで計測するものとする。

注)Mは、原則として測定器を持ち込んで計測するものとする。

正當であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全におい

○	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
△	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応（修繕・取替・更新）が必要である。
×	

--	--

○ 測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

装 置 区 分	※1 装置等 の特性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2					判定方法	※3 点検結果	※4 傾向 管理	摘 要
				目 視	管 理 運 転	年 点 検	運 転 時 点 検	臨 時 点 検				
換気設備		全般	外観	E	E	E	—	E	損傷、異常			
		換気ファン	振動(速度)	—	—	H	—	—	異常な振動がないこと。			
			温度	—	—	H	—	—	異常な温度上昇がないこと。			
		換気扇	運転状況	—	—	E	—	—	異常音がないこと。各部取付ボルト等のゆるみ、脱落等の異常がないこと。始動・運転が円滑であること。			
照明設備		全般	外観	E	E	E	—	E	損傷、異常			
			点灯状況	—	—	E	—	—	損傷、異常			
			開閉器、点滅器、照明器具、コンセント等の損傷、過熱	—	—	E	—	—	錆、熱による変形がないこと。緩み、発熱等がないこと。配線に亀裂がないこと。			
			器具固定部緩み	—	—	H	—	—	緩み、ぐらつきがないこと。			
			電線被覆の損傷	—	—	E	—	—	亀裂がないこと。			
			配線箇所の湿気、塵埃	—	—	E	—	—	汚れ、発錆がないこと。			
施設全般		建築構造物	外観	E	E	E	—	E	外壁、屋根、内壁、天井などの異常			
			ドア、シャッター	—	—	E	—	—	損傷、異常			
			窓	—	—	E	—	—	損傷、異常			
			階段、タラップ等	—	—	E	—	—	損傷、異常			
			外構(敷地内)	—	—	E	—	—	門、フェンス、外壁、侵入路などの損傷、異常			
特記事項		注) 施設全般の点検項目のうち屋外での点検は、積雪期には行わないものとする。										

施設名：ポンプ設備基地

点検実施日: 令和 ○ 年 □ 月 △ 日 2 / 2

天井クレーン

機器名: 丘珠ポンプ施設 天井クレーン

機種形式: 床上操作式天井クレーン

※1 装置等の特性(致は、致命的な影響のある機器・部品のこと。)

※2 点検方法 (()書きは運転時実施)

X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増締	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

注) Eは、取付けられている計器の読みを含むものとする。

注)Mは、原則として測定器を持ち込んで計測するものとする。

※3 点検結果の判定基準

○ 正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。

△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
---	--

×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。
---	---

※4 傾向管理

○ 測定値をグラフ化し管理基準値と比較確認する項目

装 置 区 分	※1 装置 等 の 特 性	点検部位	点検項目	点検方法 ※2					判定方法	※3 点検結果	※4 傾向 管理	摘 要
				月点検 非 出 水 期	年 運 転 時 点 検 出 水 期	※2						
						点 検	臨 時 点 検	臨 時 点 検				
天 井 ク レ ー ン	走行部	走行レール	E	E	E	E	E	走行レールの状態				
			E	E	E	E	—	車止め及びストッパの状態				
			E	E	E	E	—	走行範囲の障害物の有無				
		駆動部	E	E	E	E	—	走行車輪の状態				
			D	D	D	D	—	走行の運転状態				
	電動装置	D	D	D,M	D	—	電動機・減速機の振動、異音、過熱					
	横行部	横行レール	E	E	E	E	E	横行レールの状態				
			E	E	E	E	—	車止め及びストッパの状態				
			E	E	E	E	—	横行範囲の障害物の有無				
		駆動部	E	E	E	E	—	横行車輪の状態				
			D	D	D	D	—	横行の運転状態				
	電動装置	D	D	D,M	D	—	電動機・減速機の振動、異音、過熱					
	巻上装置部	ワイヤロープ	E	E	E	E	—	素線の断線の有無				
			E	E	E	E	—	摩耗、腐食、型くずれ等の有無				
			E	E	E	E	—	キンクの有無				
			E	E	E	E	—	ロープエンド等の異常				
			E	E	E	E	—	油塗布の状態				
		フックブロック	E	E	E	E	—	フックの回転状態				
			E	E	E	E	—	シープ、シープ溝等の状態				
			E	E	E	E	—	フックナットの回り止めの状態				
		フック	E	E	E	E	—	亀裂、変形、摩耗、腐食の有無				
			E	E	D,M	E	—	はずれ止めの状態、フックの開き				
		駆動部	D	D	D	D	—	巻上、巻下の運転状態				
		電動装置	D	D	D,M	D	—	電動機、減速機振動、異音過熱				
		給脂	ギヤ部、軸受等	E	E	E	E	—	歯車、ギヤケースの給油・塗油状態			
	表示		E	E	E	E	—	各表示の確認				
	鋼構造物	サドル、クラブ	E	E	E	E	E	変形、損傷、腐食等の有無				
		ランウェイ、手摺等	E	E	E	E	E	変形、損傷、腐食等の有無				
		ガーター	E	E	E	E	E	変形、損傷、腐食等の有無				
			—	—	M	—	—	荷重をかけたときのたわみ			(電動式の場合)	
	操作部	押ボタンスイッチ	E	E	E	E	—	スイッチボックス部の外観の状態				
			E	E	E	E	—	操作ケーブルの状態				
	安全装置	リミットスイッチ	D	D	D	D	—	巻上リミットの作動状態				
			D	D	D	D	—	横行・走行リミットスイッチの作動状況				
			D	D	D	D	—	クラッチ装置の作動状況				
		ブレーキ機構	D	D	D	D	—	ブレーキの作動状態				
—			—	E	—	—	ブレーキライニングの摩耗状態					
給電部	集電装置	E	E	E	E	E	集電子の変形、損傷、腐食等の有無 トリ線のたわみ、錆、汚れの有無					
	ケーブル	E	E	E	E	E	ケーブルの外傷、異常な曲げの有無					
	操作用開閉器	E	E	E	E	—	電磁接触器等、ケーブル類の異常の有無					
	動力分電盤	E	E	E	E	—	開閉器類、ケーブル類の異常の有無					
		—	—	M	—	—	絶縁抵抗					
特記事項	注1) クレーンの点検、整備は、法令に基づき行うものとする。 注2) 設備の仕様・用途に応じて年・月点検、臨時点検を実施し、結果を記録保存すること。 注3) 年点検は、該当する項目の点検を行い、点検結果は本チェックシート、測定結果は年点検測定記録表に記載すること。 注4) クレーンを使用する場合、作業前点検を行うこと。											

施設名： ポンプ設備基地

点検者 立会人

点検者 立会人

(※1) 動力分電盤で測定(電動機2台の合算値)するものとする。ただし、定格電流値を上回るなどの異常値の場合は単独測定すること。
(※2) 負荷は、ポンプ設備基地に保管する自家発電機(SDG500S×375KVA×50Hz)の1台分(概算重量6.75ton)とする。

(※2) 負荷は、ポンプ設備基地に保管する自家発電機(SDG500S×375KVA×50Hz)の1台分(概算重量6.75ton)とする。

年点検(測定記録表)

施設名: 厚別西川 救急排水機場

点検実施日: 令和 年 月 日

施設名: 発寒古川 救急排水機場

点検者 立会人

名称	装置区分	点検項目	点検内容	測定結果				基準値		単位	備考
				厚別西川		発寒古川		厚別西川	発寒古川		
				No.1	No.2	No.1	No.2	厚別西川	発寒古川		
水中ポンプ	水力部	電動機	絶縁抵抗	U相				0.2以上	0.2以上	MΩ	
				V相				0.2以上	0.2以上	MΩ	
				W相				0.2以上	0.2以上	MΩ	
			入力電流							A	
			電圧					400	400	V	
		サーマルプロテクター	導通							Ω	
		浸水検知器	抵抗							MΩ	
	計器	水位計	周辺土砂の堆積							cm	

名称	装置区分	点検項目	点検内容	測定結果		基準値	単位	備考
				厚別西川	発寒古川			
受電設備	配電設備 (400V受電)	ケーブル	絶縁抵抗	R相		0.2以上	MΩ	
				S相		0.2以上	MΩ	
				T相		0.2以上	MΩ	
発電設備	自家発電機	発電機	絶縁抵抗			0.2以上	MΩ	
			入力電流				A	
			電圧			400	V	
			周波数			50	V	
		始動用蓄電池	液比重			1.2以上		※点検時、均等充電を行うこと
			電圧				V	
		原動機	回転数				min ⁻¹	
			冷却水温度				℃	
			潤滑油温度				℃	
			潤滑油圧力				Mpa	
監視制御盤	現場制御盤	機側操作盤	メーターの零点調整		—	—		
			絶縁抵抗	R相		0.2以上	MΩ	
				S相		0.2以上	MΩ	
				T相		0.2以上	MΩ	
接地端子盤	現場盤	端子極	接地抵抗			10以下	Ω	

施設名： _____ 点検実施日： 令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

点検者 _____ 立会人 _____

施設 区分	一 般 管 理			
	番号	状況及び原因	処 理	摘 要
丘 珠 ポ ン プ 設 備 基 地				
厚 別 西 川 救 急 排 水 機 場				
発 寒 古 川 救 急 排 水 機 場				

※ チェックシート以外に施設管理において支障を認め、処置を実施したとき、報告が必要な場合に記載する。

点検・整備チェックシート

河川ポンプ設備・ゲート設備

施設名：6線幹道排水水門
7線幹道排水水門

点検月日：令和 〇 年 ◇ 月 ▽ 日

点検方法： 点検

【概要】

- (1) 本点検・整備チェックシートは、「河川ポンプ設備点検・整備標準要領(案)(国交省)(平成28年3月)」及び「河川用ゲート設備点検・整備標準要領(案)(平成28年3月)」の添付資料「点検・整備チェックシート」を基本としている。
- (2) 実際の運用(実点検)においては、本チェックシートに示す機器、点検部位(点検内容)の内、当該排水機場において実装されている機器、点検部位(点検内容)について実施する。致命的機器・部品については、チェックシートで網掛けの上、「致」と示されている。
- (3) 点検方法には、月点検、年点検、運転時点検、臨時点検、定期整備があり、その内容は以下のとおりである。本業務の対象となるのは、年点検、臨時点検である。

【点検方法】

- (1) 年点検は、全設備について設備機能の確認、劣化、損傷の発見のため年1回実施するものである。なお、機器の運転時に実施する点検項目は()書きで示しているが、管理運転ができない場合は月点検の目視点検項目を実施する。
- (2) 上記の年点検は、冬期間の非出水期に機場からポンプ類を回収し基地へ保管する作業を行う際に、設備機能の有無、劣化、損傷の確認及び清掃などを行うものとする。
- (3) 運転時点検は、実運転時の実施に際して、運転操作に支障がないか、運転時の異常はないか、運転終了後に次の運転に支障がないか等の確認を行うものである。
- (4) 臨時点検は、地震等の発生時において、原則、目視点検にて異常の有無の確認を主に行うものである。
- (5) 定期整備は、機器の健全度評価結果や過去の実績等により実施時期を定めて行う手法による分解整備等の内容である。

【記載方法】

- (1) 機器が複数ある場合は、号機毎に点検結果欄に記載すること。なお、点検結果欄が個々に無い場合は、摘要欄に点検結果を記載すること。
- (2) 点検の結果、不具合・故障が生じている場合(△、×判定)は、その内容について摘要欄に記載すること。また、別途、点検・整備詳細記録表には不具合項目一覧表、故障記録表には各不具合項目の状況等報告書を各々指定された様式に作成すること。なお、定期整備の点検項目は非表示としている。

樋門ゲート

機器名: 樋門ゲート

機種形式: 手動スピンドル式スライドゲート

※1 装置等の特性（致（網掛部）は、致命的な影響のある機器・部品）
 ※2 点検方法（（）書きは運転時実施）

X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増縮	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—			点検対象外

※3 点検結果の判定基準(点検結果は、該当する点検項目の欄に記入すること)	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。

[illegible]

水中ポンプ、吐出配管

機器名: 水中ポンプ、吐出配管

※3 点検結果の判定基準(点検結果は、該当する点検項目の欄に記入すること)	
○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応(修繕・取替・更新)が必要である。

注) Eは、取付けられている計器の読みを含むものとする。
注) Mは、原則として測定器を持ち込んで計測するものとする。

装置区分	※1 装置等 の特性	点検部位	点検項目	点検方法(※2)				点検結果(※3)												摘要	
				定期点検 月点検	出水期	非出水期	年点検	運転時	口径												
									φ 300						φ 250						
									P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 1	P 2					
水中ポンプ		全般	異常、損傷	—	—	E	E	—													
			揚水状況	—	—	(E)	E	—													
	ケーシング	腐食	—	—	E	—	—														
		摩耗	—	—	E	—	—														
		吊り金具	—	—	E	—	E														
		ボルト・ナット	—	—	H	—	—														
	インペラ	腐食	—	—	E	—	—														
		摩耗	—	—	E	—	—														
		欠損	—	—	E	—	—														
	メカニカルシール	油量、質	—	—	E	—	—														
		摩耗	—	—	—	—	—														
	電動機	絶縁抵抗	—	—	M	—	—												(測定結果は別紙)		
		接地抵抗	—	—	M	—	—												(測定結果は別紙)		
		入力電流	—	—	(M)	M	—												(測定結果は別紙)		
		電圧	—	—	(M)	M	—												(測定結果は別紙)		
		腐食	—	—	E	—	—														
	軸受	油量、質	—	—	X	—	—														
		摩耗	—	—	—	—	—														
軸	腐食	—	—	—	—	—															
	摩耗(スリーブ)	—	—	—	—	—															
キャブタイヤケーブル	損傷、劣化	—	—	E	—	E															
ケーブルホルダ	シール状態	—	—	(E)	—	—															
サーマルプロテクタ	導通	—	—	D	—	—												(測定結果は別紙)			
浸水検知器	導通	—	—	D	—	—												(測定結果は別紙)			
吊ワイヤロープ	発錆、損傷	—	—	E	—	—															
	汚損、保油状況	—	—	C	—	—															
吐出管	ホース類	漏れ	—	—	E	E	—														
		摩耗・劣化	—	—	E	E	—														
特記事項	注) 不具合箇所がある場合、設備の名称、号機等を摘要欄に記入すること。																				

操作盤ほか

機器名: 現場監視制御設備、電源設備

機種形式:

※1 装置等の特性(致は、致命的な影響のある機器・部品のこと。)

※2 点検方法 (()書きは運転時実施)

X	交換	C	清掃	W	分解	E	目視
A	調整	M	測定	T	増締	H	指触
D	動作確認	S	聴診	—	点検対象外		

注) Eは、取付けられている計器の読みを含むものとする。

注) Mは、原則として測定器を持ち込んで計測するものとする。

※3 点検結果の判定基準(点検結果は、該当する点検項目の欄に記入すること)

○	正常であり現在支障は生じていない。もしくは、通常の保全において十分な信頼性が確保できている。
△	現在、機器・部品の機能に支障は生じていないが、早急に対策を講じないと数年のうちに支障が生じる恐れがある。
×	現在、機器・部品の機能に支障が生じており、緊急に対応（修繕・取替・更新）が必要である。

[illegible]

年点検(測定記録表)

施設名: 6線幹道排水水門

点検実施日: 令和 年 月 日 4 / 4

点検者

立会人

名称	装置区分	点検項目	測定結果						基準値	単位	備考
			P-1	P-2	P-3	P-4	P-5	P-6			
水中ポンプ (常用)	電動機	絶縁抵抗	U相						0.2	MΩ	
			V相						0.2	MΩ	
			W相						0.2	MΩ	
		入力電流								A	
		電圧							200	V	
	サーマルプロテクター	導通								Ω	
	浸水検知器	抵抗								MΩ	
	ポンプ口径		φ 300	φ 300	φ 300	φ 300	φ 300	φ 300			
	製造(設置)年度		1978	1978	1978	1978	1978	1978			

名称	装置区分	点検内容	測定結果						基準値	単位	備考
			P-1	P-2							
水中ポンプ (非常用)	電動機	絶縁抵抗	U相						0.2以上	MΩ	
			V相						0.2以上	MΩ	
			W相						0.2以上	MΩ	
		入力電流								A	
		電圧							200	V	
	サーマルプロテクター	導通								Ω	
	浸水検知器	抵抗								MΩ	
	ポンプ口径		φ 250	φ 250							
	製造(設置)年度		2015	2015							

名称	装置区分	点検内容	測定結果						基準値	単位	備考
			15480967001	15480967002	H-5020336	AKI-5010010	No.4493	No.0040			
水中ポンプ (予備)	電動機	絶縁抵抗	U相						0.2以上	MΩ	
			V相						0.2以上	MΩ	
			W相						0.2以上	MΩ	
		入力電流								A	
		電圧							200	V	
	サーマルプロテクター	導通								Ω	
	浸水検知器	抵抗								MΩ	
	ポンプ口径		φ 250	φ 250	φ 250	φ 250	φ 250	φ 200			
	製造(設置)年度		1978	1993	1993	1993	1993	1978			

名称	装置区分	点検内容	測定結果			基準値	単位	備考
			No.1	No.2(市)	No.3			
自家発電設備	発電機	絶縁抵抗				0.2以上	MΩ	2015設置
		接地抵抗				10以下	Ω	
		電流値					A	
		電圧					V	
		周波数					Hz	
	始動用蓄電池	液比重				1.2以上		均等充電実施
		電圧					V	
	原動機	回転数					min ⁻¹	
		冷却水温度					℃	
		潤滑油温度					℃	
		潤滑油圧力					Mpa	

名称	装置区分	点検内容		測定結果			基準値	単位	備考
				No.1	No.2	No.3			
受電部 配電設備 (200V受電)	引込開閉器盤	絶縁抵抗	R相				0.2以上	MΩ	2015設置
			S相				0.2以上	MΩ	
			T相				0.2以上	MΩ	
現場 制御盤	発電機用 制御盤	絶縁抵抗	R相				0.2以上	MΩ	2018設置
			S相				0.2以上	MΩ	
			T相				0.2以上	MΩ	
	ポンプ盤	絶縁抵抗	R相				0.2以上	MΩ	
			S相				0.2以上	MΩ	
			T相				0.2以上	MΩ	
		接地抵抗						Ω	

排水機場操作報告書

報告年月日 令和 年 月 日
報告者氏名

令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日の洪水時における排水機場の操作について、別紙運転日誌等を添え、次のとおり報告いたします。

排水機場名		排水樋門名	
ゲート操作開始日時	月 日 時 分	ゲート操作終了日時	月 日 時 分
排水機場運転日時	月 日 時 分	運転開始水位（内水）	
運転中最大水位日時	月 日 時 分	運転中最大水位（内水）	
運転停止日時	月 日 時 分	運転停止水位（内水）	
天 候		運転時間累計	時間 分
浸 水 状 況	<div></div>		
排水機場操作のために出動した人員	・ 設備機械工 ～ 名 ・ 普通作業員 ～ 名		
関係機関との連絡内容	<div></div>		

作業日報

排水機場名

排水機場

決裁区分	<div>係</div>	係	長	係	種別	災 害 待 機
						災 害 運 転
						定 期 点 検
						特 別 整 備

令和 年 月 日

天候及び気象状況

業 務 内 容	状 況 及 び 原 因

報 告 時 間	報 告 内 容

操作状況								
時 間 h	:	:	:	:	:	:	:	:
内水位 m								
外水位 m								
吐出開度								
操作状況								
時 間 h	:	:	:	:	:	:	:	:
内水位 m								
外水位 m								
吐出開度								
操作状況								
時 間 h	:	:	:	:	:	:	:	:
内水位 m								
外水位 m								
吐出開度								

操作状況								
時 間 h	:	:	:	:	:	:	:	:
内水位 m								
外水位 m								
吐出開度								
操作状況								
時 間 h	:	:	:	:	:	:	:	:
内水位 m								
外水位 m								
吐出開度								
操作状況								
時 間 h	:	:	:	:	:	:	:	:
内水位 m								
外水位 m								
吐出開度								

使用物 品及油 び脂 量	品 名	数 量	用 途

工 種	氏 名	勤 務 時 間	時 間 数		備 考
			昼 間	夜 間	
設備機械工		: ~ :	:	:	
		: ~ :	:	:	
普通作業員		: ~ :	:	:	
		: ~ :	:	:	
		: ~ :	:	:	
		: ~ :	:	:	
		: ~ :	:	:	
		: ~ :	:	:	
		: ~ :	:	:	

※昼間：6：00～20：00 夜間：20：00～6：00

備 考

報告者氏名

運 轉 日 報

令和 年 月 日 曜日 天候

[illegible]

排水機場 ○号ポンプ運転記録簿

令和 年 月 日

時 間	水位		主ポンプ			蝶 型 弁 開 度 %	減速機		エ ン ジ ン															記録者	
	内 水 位 m	外 水 位 m	吸 込 圧 力 m	吐 出 圧 力 m	軸 受 温 度 ℃		潤 滑 油 温 度 ℃	潤 滑 油 圧 力 Kg/m³	排気温度			冷却水温度						冷 却 水 圧 力 Kg/m³	燃 料 圧 力 Kg/m³	潤 滑 油 圧 力 Kg/m³	潤 滑 油 温 度 入口 ℃	潤 滑 油 温 度 出口 ℃	過 給 器 温 度 ℃		軸 受 温 度 ℃
									1	2	3	1	2	3	過 給 器 右 ℃	過 給 器 中 ℃	過 給 器 左 ℃								
:																									
:																									
:																									
:																									
:																									
:																									
:																									
:																									
:																									
:																									
:																									

排水機場点検整備・操作業務（ 月分） 完了・請求内訳書									
工 種	実 施 内 訳							単価番号	備 考
	数 量		単 位	単 価		金 額			
	(延べ時間数)								
普通作業員（昼間）		時間	1 時間		円		円	1	
普通作業員（夜間）		時間	1 時間		円		円	2	
土木一般世話役（昼間）		時間	1 時間		円		円	3	
土木一般世話役（夜間）		時間	1 時間		円		円	4	
設備機械工（昼間）		時間	1 時間		円		円	5	
設備機械工（夜間）		時間	1 時間		円		円	6	
普通トラック運転費（4 t, 昼間）		時間	1 時間		円		円	7	
普通トラック運転費（4 t, 夜間）		時間	1 時間		円		円	8	
普通トラック運転費（11 t, 昼間）		時間	1 時間		円		円	9	
普通トラック運転費（11 t, 夜間）		時間	1 時間		円		円	10	
ラフテレーンクレーン運転費（25 t 昼間）		時間	1 時間		円		円	11	
ラフテレーンクレーン運転費（25 t 夜間）		時間	1 時間		円		円	12	
バックホウ運転費（昼間）		時間	1 時間		円		円	13	
バックホウ運転費（夜間）		時間	1 時間		円		円	14	
点 検 整 備			1 式				円		
小 計							円		
消 費 税(10%)							円		
合 計							円		

注1) 数量の算出は、1ヶ月の間に実施した各工種の延べ時間数とする。ただし、30分以上は切り上げて1時間とし、30分未満は切り捨てるものとする。

注2) 昼間とは午前6時～午後8時までとし、夜間は午後8時～午前6時までとする。

※ この様式は、必要に応じて適宜変更可能なものとする。